

## 防災懇談会委員の訓練、会議参加報告のまとめ

今年度、委員の皆さまからいただいた報告書をもとに、つぎの課題を見出しました。

7月～9月にいただいた報告書から見出したものは斜体で、それ以外は10月～1月にいただいた報告書より見出したものは正字体で作成しています。

こちらで切り分けたテーマごとに分類しておりますので、順不同となっております。

まとめたテーマごとに、区としてのアクションとして考えられる項目を示しております。

### <テーマごとの課題と区の考え方>

#### ・ 防災資器材

- *バーナーの点火、燃焼が悪かった。定期的な点検、整備を行う必要がある。他の資器材についても同様。*
- *出来るだけ多くの機会に、防災資器材（バーナー、発電機、ろ過機等）に触れるように努めて欲しい。*
- *バーナー操作は、使用方法をより習熟しないと重大事故につながる。*
- 防災資器材については、反復して多くの人が使えるようにする必要がある。
- 組み立てトイレについて、マンホールの耐震化が進んでいない地区では、マンホールシューターが使用できず、貯留式を使わざるを得ないという現実を認識してもらう必要がある。

#### 練馬区の考え方

##### 現状

- ・ 防災資器材の操作につきましては、一部の避難拠点では、運営連絡会の方が、3か月ごとに試験運転を行うなど、機能の維持を行っています。
- ・ 区職員でも、避難拠点要員だけでなく、交代要員育成の考え方から、要員以外の職員にも研修などの機会に、操作訓練を実施しています。
- ・ 防災訓練だけでなく、地域のイベント（餅つきやお祭り）などにも利用してもらっています。普段資器材を目にしない人にも資器材の操作方法を知ってもらえる機会となり、また数多く触れることで操作方法の習熟にも繋がっています。
- ・ バーナーの操作に関しては、防災課の職員や区の拠点要員など習熟した人が危険な箇所の説明を行ってから指導するようにしています。
- ・ 資器材の使用順序をより分かりやすくするため、独自の操作マニュアルを作成している拠点もあります。
- ・ 新潟県中越地震災害への支援を行った教訓として、仮設トイレを補完する意味から、平成17年度中に、携帯用トイレを各避難拠点に配備します。

##### 今後の考え方

- ・ 訓練直前だけでなく、少なくとも半年に一度は資器材の動作確認を行うように、避難拠点へ働きかけを行います。
- ・ 地域イベント等にも活用してもらい、防災資器材のPRや有効活用をしていきます。
- ・ 仮設トイレ組立訓練を通じて、各家庭でのトイレの備蓄の推進を図っていきます。

## 起震車の活用

- 起震車体験時には家具の転倒防止策、耐震診断、耐震補強の大切さを説明し、理解してもらったうえで訓練をしてほしい。さらにできれば、体験の機会も増やしてほしい。

## 練馬区の考え方

現状

- ・ 起震車は、避難拠点、学校、町会自治会など、地域の皆さまの要請にもとづき、運行しています。
- ・ 起震車体験ができなかったところについては、独自に池袋などにある防災館へ行き、震度体験をした拠点もあります。

今後の考え方

- ・ 起震車は現在1台で運用しており、現状でもほぼ毎日稼働している状況です。これ以上運行回数を増やすのは相当困難です。
- ・ さらにもう1台追加配備することは、1台の価格が約3千万円であることから、実施は困難です。
- ・ 起震車を利用する機会を増やすことは現状では困難ですが、家具転倒防止策、耐震診断、耐震補強の大切さを伝えることは、今後も機会を捉えて周知を行っていきます。

## ・ 区の防災態勢

- 災害時の避難者の収容は、体育館が使われる場合が多いが、体育館ではプライバシーが否定され、夜も明るく、騒音があり、睡眠もままならない。精神的にも肉体的にも苛酷な環境に置かれることとなる。被災者の一日も早い自立を考え、夜だけでもプライバシーが保たれる工夫が必要と思われる。
- 給水について、プールの水のほかにも備えるよう検討する必要がある。

## 練馬区の考え方

現状

- ・ 避難所につきましては、阪神淡路大震災において、学校の体育館が避難所になったという教訓をもとに指定しています。体育館のみでの収容が困難な場合には、教室の一部も避難所になる想定を行い、地域防災計画にもその計画を記載しているところです。
- ・ 避難は冷静に状況判断してから行っていただくよう啓発に努めます。本当に避難所に行かなければならないのは、自宅が居住に適さないほど構造的に破壊された方や、火災により家屋が焼失した方です。自宅で過ごすことが可能であれば、出来る限り自宅で過ごすことが、生活の質を保つには必要です。避難するべきでない人々が、誤解により避難すると、自分も困りますし、本当に避難しなければならない人々の生活環境を悪化させることになるからです。近年、三宅島、山古志村、玄海島など、地域の全体が避難するような災害が続いたため、大地震で地域全員が避難するかのような誤解を抱いているかたがまだいますので、この点は十分に誤解を解いて参りたいと考えています。

- ・ 避難拠点では町会や自治会など地域ごとに場所を分けて収容するなどの工夫をしたマニュアルを作成している避難拠点もあります。顔の分かる地域ごとに収容することで、不審者防止や精神的ストレスの軽減、また避難者同士の繋がりを深め、いち早い自立へ繋げていく狙いがあります。
- ・ 避難所における水の確保につきましては、プールの水のほか、区内に5か所ある給水拠点や防災井戸（深井戸）の活用、地域協定による飲料水の確保も計画しています。

今後の考え方

- ・ 平成18年度より、給水拠点の近隣にある学校に、給水任務を付与するため、避難拠点要員の増員を予定しています。

## < 避難拠点運営連絡会 >

### ・ 避難拠点運営連絡会の構成

- 連絡会の高齢化が目立つ。
- 避難拠点の運営には、もっとPTAの参加を期待したい。
- 拠点会議への参加者が、若い方が多いことは良い。
- 連絡会参加者は、幅広い年齢層が集まっていた方が良い。
- 災害時には、拠点の役員の方々も被災者となる可能性があることから、あらかじめ多くの人にいろいろな役割を経験してもらう努力をしていることは良い。
- 町会、自治会等、地域の住民組織による組織割ではなく、学区域で区切られている状態であることによる結束力の限界を感じた。
- PTAから参加されている方々は、児童の卒業や、交替制で短い期間で変わってしまうので、一人でも多くの方が残ってもらえるように意識を育てていく必要がある。

## 練馬区の考え方

### 現状

- ・ 連絡会の高齢化については、区としても対策を検討しているところですが、一部の避難拠点では、PTAとして参加された方に、引き続き避難拠点運営連絡会に参画してもらうように働きかけを行っています。
- ・ 避難拠点運営連絡会が高齢化しているのではないと、捉えております。もともと高齢の方々だけが防災会などの活動に参加されていたものを、これまでの避難拠点の活動の中で、PTA やその他の現役世代の獲得を意図的に行ってきたものであり、それが成功したところでは高齢化という印象が無く、それが成功していないところでは、旧来の防災会活動の枠組みと他差が無く「高齢化」という状態が放置されているものであります。このような避難拠点においては、引き続き、高齢者だけの防災活動を克服する活動を強化していくことが必要です。
- ・ PTA内部の役職の一つに避難拠点要員を設け、既存のPTA部員(過去のPTAが所属している部)の他に、現役のPTAが毎年必ず入ってくる仕組みを作った避難拠点もあります。

### 今後の考え方

- ・ 区としても、PTAの方へ、引き続き参加していただくようお願いをしているところですが、小学校の場合、児童が卒業し、区立中学に通うこととなった場合に、そちらで活動を再開する方もおり、強くお願いすることが難しい現状もあります。
- ・ 災害時には、様々な年齢層の方々が避難してくることが想定されます。このことから避難拠点の運営にも、各年齢層の方が参画していただけることは、年齢層ごとのニーズが把握しやすくなり、効果的といえます。PTAの方が少しずつでも連絡会に残っていただければ、いずれ年齢層を網羅できるとは考えておりますが、より多くの住民の方に参画していただけるように、訓練等の機会を捉えて呼びかけを行っていきます。

## 避難拠点の運営

- 鍵について、担当者の把握とともに、体育館、備蓄庫、独立した部屋(たとえばミーティングルーム)など、校舎を開錠する担当がいなくても緊急なものを取り出せる、または開くことができるよう工夫を。
- 学校、地域、PTAごとに識別できるような衣装(ベスト、ジャンパ等)があると良い。
- 小さなこと、基本的なことでも、出来ることから実行実践する体制が必要である。

## 練馬区の考え方

- 現状
- ・ 一部の避難拠点では、学校との話し合いにより、鍵の保管場所、開錠方法などを、取り決めているところもあります。
  - ・ また、ごくわずかですが、鍵の引渡しを受けている拠点もあります。
  - ・ 連絡会の方々の識別について、いくつかの拠点では活動助成金や自身の活動費負担により各自で用意しております。名札、ベスト、ジャンパー、たすき、リボン等、識別のための物については連絡会で決めていただいております。
  - ・
- 今後の考え方
- ・ 避難所開設にあたっては、通常の学校としての防犯面等の問題もあり十分な話し合いが不可欠となってきます。今後も開設が円滑に出来るように拠点と学校との話し合いを進めていきます。
  - ・ 阪神淡路大震災では、学校に避難してきた住民の方が、窓ガラスやドアを破壊して校舎に入った、という事例を教訓として、避難拠点開設の際に学校施設管理者が不在の場合に、施設の破壊を必要最小限度に留めるよう、対応を取り決める働きかけを行っていきます。
  - ・

## 会議、役員会の進め方

- 会議の進め方について、報告事項と検討事項とを分け、決定したら連絡会全員に周知を行うようにしたほうが良い。
- 避難拠点により、活動の内容に温度差がある。頻繁に会議が開催されている避難拠点は、その意義が定着しつつある。
- 会議での席次は、各部ごとにまとまっていた方が、メンバー一人一人が発言しやすい雰囲気になる。

## 練馬区の考え方

- 現状
- ・ 会議の進行方法は、地域により特性があることを考慮し、各避難拠点で独自に決めて進めているところです。
- 今後の考え方
- ・ より会議が円滑に進む方策を検討し、連絡会に提案を行います。
  - ・ 会議で検討された内容が風化しないように、議事録を作成し、役員に配布する等、記録を残す提案をしていきます。(庶務)
  - ・

## < 避難拠点訓練 >

- ・ 避難拠点訓練の実施
  - 訓練参加の際には、日時、場所の案内だけでなく、訓練の意味をわかってもらい、減災意識が植え付けられるように助言をして、より実践的な訓練となるようにしてほしい。
  - 訓練実施に際して、相手の興味を掘り起こして、それを導いていく工夫で、訓練の効果を最大限に引き出すことが出来る。
  - 実際の災害を想定した宿泊訓練、活動できる人が限られる、平日等の参集条件の悪い時間を想定した訓練を取り入れると効果的ではないか。

- 予想以上の区民が参加した。最近の国内外での災害の頻発による危機意識の表れではないかと思う。
- 学校側に理解があり、協力的だと宿泊訓練はうまくいく。
- 学校での開催なので、在校生の参加を促すことも良いのではないかと。学校から、児童、生徒へ、訓練への参加を促すのも良いと思う。
- これからの防災の担い手となる子どもたちをターゲットに置いた企画は注目に値する。
- 訓練の実施には、一人の責任者が全てを仕切るのではなく、出来るだけ多くの方に協力していただき、各パートに責任者を置いて実施した方が良い。

#### 練馬区の考え方

##### 現状

- ・ 平成17年に区報臨時号を発行し、区民のみなさまへ周知を図り、防災意識の啓発を行ったところです。
- ・ 最近、テレビなどマスコミでも、防災について取り上げられており、防災意識が強まってきていることは承知しております。
- ・ 訓練実施の際には、会長は司令塔となり、本部にいて緊急事態に備えるよう働きかけを行っております。
- ・ 子どもたちへの防災教育は、次世代の防災を担う重要な存在であることは、区としても認識しているところであり、「心のあかりを灯す会」に代表されるような、子どもたちへ防災を通じた命の大切さを教える団体へ支援を行っているところです。
- ・ 防災訓練実施においての運営のやり方などは各避難拠点で考え実施しています。災害時は避難拠点の全員が参集出来るとは限りませんので、部会ごと部長を中心に災害時の従事内容を実施し、誰が参集しても避難所運営のノウハウを持てるように訓練をしています。

##### 今後の考え方

- ・ 訓練を初めて行う場合には、メニューの作成方法、担当者、責任者の配置方法等について、一人に負担がかからないよう、今後も適切な助言を行うよう努めていきます。
- ・ 毎年同じ訓練を行うのではなく、訓練ごとに新たな訓練を盛り込むように働きかけ、必要であれば他の避難拠点で行われた訓練等も紹介して、参加者の防災意識を高めるように努めていきます。
- ・ 学校防災訓練を、区、学校、地域が一体となって実施することにより、相互に防災意識の向上が望めることから、実施の際には、今後も避難拠点運営連絡会の皆さんの協力をお願いしていきます。

#### 他のイベントとの合同開催

- 他の地域のイベントと同時開催すると、多くの方が参加するので良いこととは思うが、実施主体が不明確になり、開催の狙いがぼける恐れがある。
  - ◇ 準備が二重になり大変
  - ◇ 会場内が散漫になる恐れがある。
- 他のイベントとの合同開催は、集客効果が期待でき、防災意識の向上に役立つ。

#### 練馬区の考え方

- 現状
- ・ 地域のイベント(餅つき大会、リサイクルマーケット等)と合同して避難拠点訓練を実施した場合、訓練のみの開催より多くの人たちが集まることは承知しております。しかし、運営する方々の役割が重複した場合、担当者は大変煩雑になり、ご指摘の事態が発生することも事実です。
  - ・ 普段、防災に興味をもっていない人々に意識啓発を出来る機会でもあります。
- 今後の考え方
- ・ イベントの同時開催については、集客効果が大きいことから、今後も支援に努めます。
  - ・ また、担当者の役割が重複しないよう、適宜助言を行います。
  - ・

#### 訓練の進め方

- 役割分担を決める際には、具体的な作業内容を参加者に周知させると良い。
- 訓練実施前に各訓練項目や作業の担当者を明確にし、本番は担当者の責任で実行するようにした方が良い。
- 担当者の説明中は、たとえ先生であっても、途中で話の横取りはしないように努めること。全ての説明が終了した段階で補足説明を行うことが望ましい。
- 訓練の実施の際には、急な変更にも対応できるように、人材の適切な配置を考える必要がある。
- 全体の指示を行う者、各パートの責任者を明確にし、指示はだれから受けるのかをあらかじめ決めておくが良い。
- 集合させて情報を伝えるときには、静粛させてから説明するようにした方が良い。
- 訓練参加者に物資等を配給するときには、弱い立場の人(災害要援護者)から先に、というルールを当たり前にした。
- 給食用の食材は余分が出るくらいを用意したほうが良い。
- スタンプラリー方式で、全ての訓練に参加した人に粗品を進呈する試みは良い。

#### 練馬区の考え方

- 現状
- ・ 訓練内容の運営方法は、各避難拠点独自に決めて進めているところです。
  - ・ 訓練参加者予想数などは避難拠点が決めています。当日、参加者が多く食材が足りなくなりそうな場合はどうしたらいいか、等その場で臨機応変に対応する能力や判断することも災害時の有効な訓練となります。
  - ・ 地域の避難拠点があつまり、お互いの成果を発表しあう、交流会を開催しています。
- 今後の考え方
- ・ より訓練が円滑に進む方策を検討し、連絡会が自ら考えよりよい方法を探し出せるように提案を行います。
  - ・ 他の拠点がどのような訓練を実施しているかが把握しやすくなるよう、HPや掲示板で情報交換が出来る仕組みを検討していきます。
  - ・ 地域内の避難拠点役員が一同に会して発展的な論議が出来るような場を今後も引き続き開催していきます。

・ 訓練の内容

- 避難拠点の役割、機能、本番を想定した体制等を整理してみてもどうか。ローテーション、引継ぎ体制などを想定してマニュアル化を検討するなど。
- 学校防災訓練は、1～3年生が4～6年生になったときに再び体験できるように、少なくとも3年周期で行って欲しい。
- 雨天時の訓練も、中止する訓練項目を設定したり、場所を確保しておいたりなど、あらかじめ想定しておくべき。
- 訓練で積み重ねたノウハウを風化させないために、文書にまとめたほうが良い。他の避難拠点への教材として使用できるようにする必要がある。
- 学校の立地条件（駅が近い、幹線道路が近い、後方医療機関や医療救護所が近い、住宅地の真ん中等）に沿った訓練メニューを視野に置く必要がある。
- 訓練メニューについては、各拠点が創意工夫を行い、マンネリ化を避ける努力がなされている。
- 訓練項目を絞り込み、より多くの人たちに体験させたことは有意義であった。
- まちあるきワークショップは、地域の危険箇所や防災施設など有事に使用できるものなどを自ら見て、考え、情報を共有する企画であり、注目できる。
- 
- まちあるきワークショップは、地域の方々がコミュニケーションを深め、地域を知り、防災地図をつくり情報を共有するには最適な方法だが、さまざまな資源やその可能性をさらに深く掘り下げるために、継続が大切。
- ペット同行訓練は、人の避難についても現実感を持って考えるきっかけになり、訓練の効果が大きいので、積極的に訓練に取り組む必要がある。
- どの訓練でも、その訓練の意味がきちんとレクチャーされていない。煙を吸うと人はどうなるか、この揺れで家が、部屋がどうなるか等、伝えなくてはただアミューズメントパークで楽しんで終わりにになってしまう。訓練に伴う減災知識の効果および普及を考えながら実施してほしい。

## 練馬区の考え方

### 現状

- ・ 区では、避難拠点の運営についてマニュアルを作成し、連絡会に参加されている皆様にお配りしているところです。しかし、地域固有の運営方法もあり、区の発行したマニュアルだけでは避難拠点の活動を微細に網羅することは困難と認識しています。
- ・ 一部の避難拠点では、個別マニュアルの作成を行っているところもあります。
- ・ 帰宅困難者訓練や医療救護訓練、給水訓練（給水所から）など学校の条件を考えどんな訓練が合わせられるのか考慮しながら訓練を実施しています。
- ・ 立地条件に基づく訓練では、平成17年10月に、石神井東中学校と隣接する順天堂大学附属練馬病院と合同で、災害医療訓練を実施しました。
- ・ 一部の避難拠点では、駅から近い立地であることから、帰宅困難者の発生を想定し、対応を検討しています。

### 今後の考え方

- ・ ペット問題については、避難場所の共有において普段のしつけが非常に重要となってきましたので、飼い主への意識啓発を含め検討し取り組んでいきます。
- ・ 地域の立地に即した訓練を実施していただく働きかけを行っていきます。
- ・ まちあるきワークショップの実施は、連絡会による独力での実施は難しいと考えており、区としても、地域の皆さんの希望に対して、積極的に協力していきます。
- ・

## 避難拠点要員（区職員）

- *学校要員の参画意識が低いように思われる。昼間の災害発生時には、初動期における重要な役割をもっていることの理解を促すべきである。*
- *地域に在住する避難拠点要員は、区民にとって心強く、安心できる存在である。*
- *避難拠点要員のリーダーシップ、責任感と熱意が拠点運営を左右するともいえるので、要員の防災意識の向上を図る方策の検討を行うべきである。*

## 練馬区の考え方

### 現状

- ・ 学校要員は、学校長推薦によるもので、構成員は先生、給食調理、用務、事務員などになっています。東京都の職員である先生方は、超過勤務の対応も区で行うことが出来ず、区として命令を行うことが難しい状況です。
- ・ 避難拠点要員を対象として、ほぼ毎年研修を実施して、防災意識の啓発を行っています。
- ・ 避難拠点要員以外にも、新規採用職員を毎年、保育園長を対象とした研修を平成16年度に実施しました。

### 今後の考え方

- ・ 平成18年度より、学校に勤務する職員で、学校要員になっていない職員については、居住要件に基づく避難拠点要員の任命対象となりました。このことから、学校に勤務する職員に対しても、防災意識の啓発につながるものと考えています。
- ・ 避難拠点要員を対象とした研修は、今後も研修内容を工夫して、引き続き実施していきます。
- ・ 避難拠点要員制度は、現在、避難拠点周辺に在住する区職員を対象として任命していますが、平成18年度より、近隣施設に勤務する職員も対象に含めて任命するように改める予定です。



・ 区民の防災意識の向上

- 子どもの興味を持つものは、親も興味をもちます。親子での参加は、家庭での防災を話し合える機会にもなるので、訓練の意味や参加した感想を話し合えば、更に効果が上がる。
- 効果的な啓発手段を研究してほしい。
- いろいろな人の集まり（民生委員、ケアマネージャ等）で講話、研修を行い、意識啓発を行ってみてはどうか。
- より多くの方が参加する方策について、検討することが極めて重要と思われる。同じメンバーだけで訓練を重ねても効果的とはいえない。
- 学校防災訓練の実施には、例えば、土、日に行われる授業参観に合わせて行ってみたいかがか。父兄にも引き続き参加してもらうことができ、より多くの人への周知になるのではないか。
- 避難拠点と地域の企業は、お互いに歩み寄り、協力し合うきっかけを求めている。このきっかけ作りを行政にお願いしたい。
- 地域の人にPRし、協力関係を増やしていくべき。
- 会の存在をもっとアピールした方が良い。（心のあかり）
- 各年齢層にわたって多くの住民を訓練に参加させる工夫を検討する必要がある。
- 練馬区内103校の避難拠点について、それぞれの現況をまとめた資料を作成し、公開することにより、各拠点が切磋琢磨するきっかけになるのではないか。

練馬区の考え方

- 現状
- ・ 次世代の防災を担う児童、生徒への意識啓発は、区としても重要な課題と認識しています。
  - ・
- 今後の考え方
- ・ 多くの地域住民が参加し
  - ・ 授業参観に合わせて学校防災訓練を実施する試みは、教育委員会に提案します。
  - ・ 「心のあかりを灯す会」への会員募集については区ホームページでも行っていきます。

災害要援護者

- 要援護者(外国人)の訓練は、普段防災に関心の無い方の意識の掘り起こしに役立つ。
- 外国人対照の訓練は、意思の疎通が難しく、訓練担当者が意思伝達に苦労していた。
- 避難所で、班単位で行動するときは、前後に大人（健常者）を配置し、小さい子どもは大きい子どもと手をつないで移動する等、自分より弱い立場の人をケアする工夫をしてみてもどうか。
- どういう要援護者に、どういう配慮が必要か、適切かを具体的に整理できないか。
- 気候（寒暑冷暖）を考慮して受付会場、開会、閉会などの会場を設定し、要援護者等への配慮を行う必要がある。
- 外見から障害がわからない聴覚障害者の方々には、より援護を行いやすくするために、本人同意の上、何らかの標識をつけていただくようにしてはどうか。
- 障害者の方を含めた訓練を実施する場合には、より安全に行うための対策が必要である。

#### 練馬区の考え方

- 現状
- ・ 要援護者対策は、区としても災害対策上、重要な課題と認識しています。
  - ・ 要援護者（外国人）に対しては、区としては国際交流協会と協力し、外国人が集まる施設を中心に防災について啓発していきます。
  - ・ 聴覚障害者の方への標識ですが、障害者側より抵抗があることを伺っております。本人同意があれば可能と考えておりますが、
- 今後の考え方
- ・ 聴覚障害者の方への配慮ですが、標識が無くても援護が出来る方法を今後考えていきます。

#### ・ その他の課題

- *せっかくの防災訓練の機会をどう活かすか、訓練の場を利用して、怪我をしない、死なない術や、拠点連絡会メンバーも被災者となるのだから、お互いに助け合おうなど、波及効果などについて整理してみてもどうか。*
- *訓練参加者全員に、アンケートをとってみてもどうか。*
- *訓練参加者が、訓練について話し合う場を設けてみるかどうか。*
- *拠点交流会は、当分の間、拠点同士が「交流をする場」としてほしい。互いの紹介や顔合わせ、連絡・連携できるような地ならしを中心にすべき。*
- *訓練実施の際には、隣接する拠点にもお知らせして、見学したり参加したりできる形をつくっていただきたい。（事例を聞くより、体験・体感したほうが効果的）*
- *避難拠点同士の連携が実現したら、グループ化して幹事拠点を設置し、年1、2回くらいのペースで定期的な交流できる場が持てるようになると理想的。*

#### 練馬区の考え方

- 現状
- ・ 一部の避難拠点訓練において、参加者へ訓練についてのアンケートをとっていることは承知しております。
  - ・ 訓練の実施後、連絡会で反省会を行っています。
  - ・ 現在、定期的ではありませんが、地域の拠点の交流会を開催しております。
- 今後の考え方
- ・ 反省会での結果を、次回の訓練に活かしていくように、記録を残す等の工夫を機会を捉えて提案していきます。
  - ・